

海陽町における古墳の発見と対応について

1. 経緯

- ・海部野根道路「多良地区」(海部 IC 付近)において、
前方後円墳1基を含む計5基の古墳の可能性のあるものを発見 (R5. 9月)
- ・文化庁調査官が現地確認し、「非常に歴史的価値のある古墳群の可能性」、
「評価確定には試掘調査(規模や時期の確認)が必要」との意見 (R5. 11月)
- ・「多良・高園・野江地区」地元説明会 (R5. 12月)
- ・試掘調査 (R5. 12月からR6. 4月末まで)
- ・学識経験者(県文化財保護審議会委員、県外研究者)による現地視察 (R6. 1, 3月)

※古墳発見以来、国土交通省、海陽町と定期的に対応を協議

2. 試掘調査成果と古墳の評価

- ・1号墳：古墳時代前期(1, 750～1, 600年前)の全長50mの前方後円墳
2～5号墳：古墳時代前期の径12～16mの円墳
- ・1号前方後円墳、2号円墳は、国史跡相当との評価(文化庁、学識経験者)

3. 古墳の保存方針

- ・1、2号墳は現地保存 3～5号墳は記録保存
- ・県から国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所へ、上記保存方針を要請 (R6. 7. 1)
- ・徳島河川国道事務所から県へ、上記保存方針とするとの回答 (R6. 7. 16)

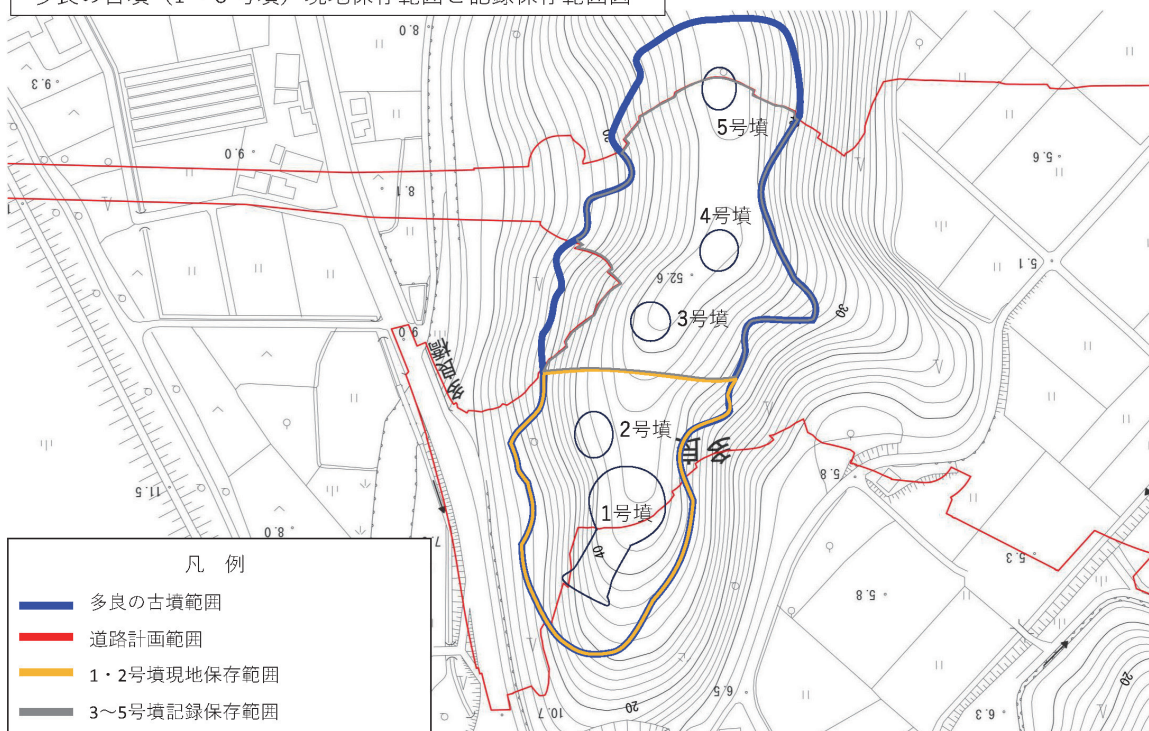
4. 今後の予定

- ・1、2号墳 国史跡へ向けた確認調査(海陽町)
- ・3～5号墳 記録保存のための発掘調査(県)

位置図



多良の古墳（1～5号墳）現地保存範囲と記録保存範囲図



多良の古墳位置図と1～5号墳保存範囲図



写真1 1号前方後円墳 前方部から後円部を望む



写真2 2号円墳、1号後円部から望む



写真3 1号墳1トレンチ



写真4 1号墳2トレンチ

※葺石：古墳の墳丘斜面などに敷きつめられた礫。
一般的に河原石が用いられ、盛土の流出を防ぎ、
装飾的な意味もあるとされる。